



2

洗われたブロンズ像



【メモ】画面に描かれたブロンズ像は、イタリアを代表する具象彫刻家であるヴェナンツォ・クロチェッティ(1913〜2003年)作の「ダンサー」(92年)。「踊り子」シリーズの1作品で、94年に旧東京銀行から寄贈された。

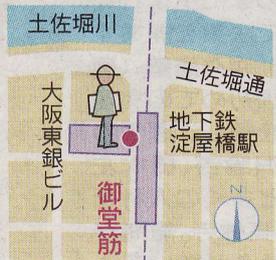
御堂筋 ものかたまり

周りにも水まき清めの空間

御堂筋の東側と西側沿道に人間の空間を占め、通る人々に潤いを与えてくれるのが、ブロンズ像などいくつかの彫刻たちである。いつもと同じように、淀屋橋から地上が上がって梅田方ちづくりネットワークと

るのはうれしかった。さらに本町方面に歩いていくと、拾ったゴミを入れたポリ袋を片手に引き揚げてくる事務服姿の数人の集団に出会った。今日はこの辺の一斉清掃日ですか、と尋ねると「御堂筋完成70年の日ですからね」という。後で資料で確認したら、現在の道幅44メートルに拡張した工事は、1937年5月11日に完了していた。この工事は故関一・大阪

面へ。車の流れに沿って本町方向を見ると、赤いハッピが目にとまった。目を凝らすと、分離帯の植え込みにはブルーの作業服を着た人たちが、ポリ袋を持ってゴミを拾っているではないか。何だろう、と赤いハッピ



刷り込まれ、年2回、彫刻に限り洗っているといふ。なぜ彫刻だけにしかたかか尋ねると「そりゃ、彫刻は御堂筋の宝ですもの」。ネットワークの企業会員の一人だが、参加は自発的という。御堂筋を歩く朝10時ごろの人々は、ビジネススマンやキャリアウーマンが多く、彫刻の存在さえ気づかないのではと思うくらい、足早に動いていた。一方では宝を掃除する社員もいることを、同じ視界の中でみ